

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	基礎看護学実習Ⅰ（療養環境を知る）	学年時期	1年次 前期		
担当講師 (実務経験)	臨地実習指導者				
	専任教員（臨床実務経験有）				
科目目標	病院の機能・構造、療養している対象の生活環境について知る				
授業内容					授業方法
学習課題	1. 病院の構造および機能を知る 2. 病棟および病室の環境を観察する 3. 看護学生として責任ある態度で行動する				臨地実習
方法	1. 実習オリエンテーションを受ける 2. 病院オリエンテーションを受ける 3. 病棟オリエンテーションを受け、病棟を探索する 4. 患者_看護師のコミュニケーション場面を見学する（シャドーイング） 5. 観察したことを行動計画表および実習記録で振り返る 6. 学生カンファレンスを行う 7. 臨地終了後、実習検討会を行う				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で合格				
テキスト	ナイチンゲール著、小玉香津子ら訳：看護覚え書、日本看護協会出版会 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院 任和子ら編集 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院				
参考文献					
備考	詳しい学習内容・方法については、臨地実習ガイダンスを参照				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	45
授業科目	基礎看護学実習Ⅱ（対象の療養・生活環境と対象の理解）	学年時期	1年次 後期		
担当講師 (実務経験)					
	専任教員（臨床実務経験有）				
科目目標	医療・看護活動をととして、人間の理解を深め、対象の療養生活が理解できる				
授業内容					授業方法
学習課題	1. 対象の思いに関心を向け、対象を尊重した行動がとれる 2. 対象の療養生活・生活環境について理解できる 3. 既習の技術を活用して健康問題を考えるための情報収集ができる 4. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動できる				臨地実習
方法	1. 病棟オリエンテーションを受ける 2. 本日の実習目標・行動計画を立案し、指導者と調整を行う 3. 患者_看護師のコミュニケーション場面や援助場面を見学する（シャドーイング） 4. 看護・医療におけるコミュニケーションを意識して患者とコミュニケーションをとる 5. プロセスレコードを用いて患者との相互作用を振り返る 6. 受け持ち患者記録様式1、病理的状態記入用紙を作成する 7. 観察、実践したことを行動計画表および実習記録で評価・考察する 8. 毎日、実習の報告を行う 9. 看護技術経験表の行動基準に基づき、看護技術の実践をする 10. 学生カンファレンス、終了反省会を行う 11. 臨地終了後、実習検討会を行う				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で合格				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 看護がみえるフィジカルアセスメントVol.3 メディックメディア 高橋清美著：看護コミュニケーション ヘルス出版 任和子ら編集 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院				
参考文献	稲田八重子他著：ペプロウ 人間関係の看護論 医学書院 看護がみえるvol.5対象の理解Ⅰメディックメディア 竹尾恵子監修 看護技術プラクティス 第4版 学研				
備考	詳しい学習内容・方法については、臨地実習ガイダンスを参照				

分野	専門分野	単位数	2	時間数	90
授業科目	基礎看護学実習Ⅲ（看護過程の展開）	学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	臨地実習指導者				
	専任教員（臨床実務経験有）				
科目目標	1. 科学的思考のプロセスを用いて、看護過程の展開ができる 2. 対象を理解し、必要な基本技術を用いて個別性のある日常生活援助が理解できる				
授業内容					授業方法
学習課題	1.対象や家族と信頼関係形成に必要なコミュニケーションをとり、意図的な情報収集ができる 2.批判的思考を使い系統的にアセスメントし、看護問題を抽出し看護計画を立案できる 3.立案した看護計画に沿って、個別性のある日常生活援助ができる 4.看護目標に基づいて評価・修正できる 5.看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動できる				臨地実習
方法	1. 病棟オリエンテーションを受ける 2. 本日の実習目標・行動計画を立案し、指導者と調整を行う 3. 受け持ち患者記録を作成する 4. 看護師と共に看護援助を実施し、指導者から助言を受ける 5. 観察、実践したことを行動計画表および実習記録で評価・考察する 6. 毎日、実習の報告を行う 7. 看護技術経験表の行動基準に基づき、看護技術の実践をする 8. 看護計画を発表発表し、助言を受け修正する 9. 立案した看護計画を実践し、評価する（評価は、学内） 10. 学生カンファレンス、終了カンファレンスを行う 11. 臨地終了後、実習検討会を行う				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で合格				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 看護がみえるフィジカルアセスメントVol.3 メディックメディア 任和子ら編集 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院 高橋清美著：看護コミュニケーション ヘルス出版 秋葉広子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論 の実践、ヌーベルヒロカワ、2016 高木永子他：看護過程に沿った対象看護、第5版 学研 2018				
参考文献	稲田八重子他著：ペプロウ 人間関係の看護論 医学書院 看護がみえるvol.5対象の理解Ⅰメディックメディア 竹尾恵子監修 看護技術プラクティス 第4版 学研				
備考	詳しい学習内容・方法については、臨地実習ガイダンスを参照				

分野	専門分野	単位数	2	時間数	90
授業科目	地域・在宅看護論実習	学年時期	3年次		
担当講師 (実務経験)	臨床看護師 専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	1. 地域で生活している対象への保健活動の実際を学び、看護の役割を理解する。 2. 在宅で療養している対象への看護活動の実際を学び、対象と家族に対する看護の役割を理解する。				
授業内容					授業方法
学習課題	1-1) 施設の概要を理解する。 1-2) 地域住民への保健活動及び疾病構造について理解する。 1-3) 家庭訪問の目的、意義を理解する。 1-4) 健康相談、健康診査、集団検診について学ぶ。 2-1) 在宅療養者と家族が抱えている生活上のニーズや思いを理解する。 2-2) 看護場面を通して、場や対象に応じた看護師の役割と連携の実際について学ぶ。				臨地実習
方法	1. 保健センター、訪問看護ステーション、在宅医療支援の3か所で実習する。 2. 事前学習課題をテキストや参考資料で調べ、実習に臨む。 3. オリエンテーションを受け、施設の概要を把握する。 4. 保健センターでは、保健事業に参加する。 5. 訪問看護ステーションでは、訪問に同行し、援助の見学または実施を行い、看護過程を展開する。 6. サービス担当者会議や他機関・他職種との連携・調整の見学を行う。 7. 在宅医療支援では、外来通院患者への同行や、地域医療連携室の退院調整看護師やリソースナースの活動の実際を見学する。 8. 地域・在宅看護論実習記録を用いて、対象の理解、看護の役割について学び実習指導者や専任教員より指導を受ける。 9. 実習の振り返りを行う（最終カンファレンス）。				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で習得とする				
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 地域・在宅看護論②地域・在宅看護の実践 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論				
参考文献	訪問看護活用ガイド 改訂版 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団				
備考	保健センター・訪問看護ステーションは、外部実習である。				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	45
授業科目	成人・老年看護学実習Ⅰ	学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	臨床看護師 専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	1. 地域で暮らす対象とその家族の生活の中での健康管理の状況（疾病予防や治療との両立）を知る。 2. 地域の勤労者の特徴を捉え、必要な看護を考えることができる。				
授業内容					授業方法
学習課題	1. 地域の勤労者のライフスタイルの特徴を理解する。 2. 対象の生活環境（仕事・日常生活）における健康問題を理解する。 3. 対象の生活の中での疾病予防・治療における継続看護の必要性がわかる。				臨地実習
方法	1. オリエンテーションを受ける 2. 行動計画を立案し、指導者と調整を行う 3. 健康管理センター実習では、対象者へ同意を得て情報収集（インタビュー）を行いながら、健康診断に同行し検査や保健指導の実際を見学する（1日） 4. 外来実習では、対象者に同行しインタビューを行う（1日） 5. 企業見学を行い労働環境や企業での健康管理の実際を知る（1日） 6. 学生カンファレンスを行う 7. 学内実習では、臨地で得た情報をもとにグループワークを実施し対象者の理解を深める 8. 毎日実習の振り返りを行い、教員へ報告する 9. 実習終了後に学内で検討会を行う				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で修得とする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 老年看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学②～⑭ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院				
参考文献	基礎・臨床看護技術 臨床検査データブック 医学書院 看護がみえるvol.5対象の理解Ⅰメディックメディア 治療薬 治療薬マニュアル 各分野ごとの専門書				
備考	2年前期までの既習の知識を踏まえ、成人・老年看護学実習Ⅰでは地域で生活する対象と関わり、疾病予防や生活と治療との両立の状況を知る。				

分野	専門分野	単位数	2	時間数	90
授業科目	成人・老年看護学実習Ⅱ	学年時期	3年次 通年		
担当講師 (実務経験)	臨床看護師				
	専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	健康危機状況にある対象の症状・治療・検査・処置について学び、対象に必要な看護を導き出すための臨床判断を学ぶ。				
授業内容					授業方法
学習課題	1. 健康危機状況にある対象の特徴を理解し、関係形成を図る 2. 健康危機状況による影響を理解する 3. 臨床判断の思考を学び、対象の看護問題を明確にできる 4. 健康危機状況からの回復過程を捉え、生活拡大のための看護について理解する 5. 対象の健康問題が家族や周囲の人々に及ぼす影響について理解する				臨地実習
方法	1. オリエンテーションを受ける 2. 行動計画を立案し、指導者と調整を行う 3. 受け持ち患者記録を作成する 4. 指導者と共に看護援助を実施し、助言を受ける 5. 実施した援助の振り返りを行う 6. 毎日、実習の報告を行う 7. 看護技術経験表の行動基準に基づき、看護技術を実践する 8. 受け持ち患者の治療に応じて手術室の見学、ICUでは看護師と共に看護を実践する 9. 学生カンファレンスを行う 10. 実習の振り返りを行う（終了反省会） 11. 実習終了後に学内で検討会を行う 12. 実践活動外学習では、オリエンテーション、疾患治療の学習、看護技術演習を行う				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で修得とする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学概論 老年看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学②～⑭ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 別巻 臨床外科看護総論・各論 医学書院				
参考文献	基礎・臨床看護技術 臨床検査データブック 医学書院 看護がみえるvol.5対象の理解 メディックメディア 治療薬 治療薬マニュアル 各分野の専門書				
備考	成人・老年看護学実習Ⅱでは、既習の知識を統合させ、危機状態にある対象に迅速に看護を導き出す為の臨床判断の実際を学ぶ				

分野	専門分野	単位数	2	時間数	90
授業科目	成人・老年看護学実習Ⅲ	学年時期	3年次 通年		
担当講師 (実務経験)	臨床看護師 専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	対象の健康問題による日常生活への影響について理解し、セルフマネジメントが図れるよう生活行動の変容に向けての看護を学ぶ。				
授業内容					授業方法
学習課題	1. 対象の生活行動の特徴を理解する 2. 対象の健康問題が日常生活に及ぼす影響について理解する 3. 対象のQOLを維持し高めるための看護を理解する 4. 対象の健康問題が家族や周囲の人々に及ぼす影響について理解する 5. 医療チームの一員として、自分ができることは何かを考え実践する				臨地実習
方法	1. オリエンテーションを受ける 2. 行動計画を発表し、指導者と調整を行う 3. 受け持ち患者記録を作成する 4. 指導者と共に看護援助を実施し、指導者から助言を受ける 5. 実施した援助の振り返りを行う 6. 毎日、実習の報告を行う 7. 看護技術経験表の卒業到達レベルに基づき、看護技術の経験を増やす 8. 学生カンファレンスを行う 9. 実習の振り返りを行う（終了反省会） 10.実習終了後に学内で検討会を行う				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で修得とする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学概論 老年看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学②～⑪ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院				
参考文献	基礎・臨床看護技術 臨床検査データブック 医学書院 看護がみえるvol.5対象の理解 I メディックメディア 治療薬 治療薬マニュアル 各分野の専門書				
備考	この実習では、対象者が健康の維持・健康障害の悪化防止のために、セルフマネジメントできるよう退院支援の看護を実践する。				

分野	専門分野	単位数	2	時間数	90
授業科目	成人・老年看護学実習Ⅳ	学年時期	3年次 後期		
担当講師 (実務経験)	臨床看護師 専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	対象の特徴と健康問題を理解し、臨床判断を活用して対象に必要な看護を多角的に捉え、健康の段階に応じた個別性のある看護を実践する				
授業内容					授業方法
学習課題	1. 対象の特徴と健康問題、これまでの生活行動を統合して理解する 2. 臨床判断を活用し、今身体の中で何が起きているのかを考え、そこから必要な看護を導き出し実践する 3. 対象のQOLを踏まえ、継続看護の必要性を理解した上で、健康の維持・増進と疾病の予防の看護を実践する 4. 対象を中心に展開されるチーム医療の一員として、自分ができるところを考え行動する				臨地実習
方法	1. オリエンテーションを受ける 2. 行動計画を発表し、指導者と調整を行う 3. 受け持ち患者記録を作成する 4. 指導者・他学生と協力して看護援助を実施し、指導者から助言を受ける 5. 実施した援助の振り返りを行う 6. 毎日、実習の報告を行う 7. 看護技術経験表の卒業到達レベルに基づき、看護技術の経験を増やす 8. 学生カンファレンスを行う 9. 実習の振り返りを行う（終了反省会） 10.学内で実習検討会を行う				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で修得とする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学概論 老年看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学②～⑪ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院				
参考文献	基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえるvol.5対象の理解 メディックメディア 治療薬マニュアル 医学書院 臨床検査データブック 医学書院				
備考	成人・老年看護学実習総まとめの実習であるため、これまでの実習で学んだことをすべて統合させて個別性のある看護を実践する。 また、統合実習にスムーズに移行できるようにする実習でもある。				

分野	専門分野	単位数	2	時間数	90
授業科目	老年看護学実習	学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	臨床看護師 専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	1.老年期の特徴を理解し、日常生活援助を通して高齢者の健康と生活の仕方を学ぶ。 2.施設における看護職の役割と多職種との連携について考えることができる。				
授業内容					授業方法
学習課題	1. 老年期の特徴を理解する 2. 施設で生活している高齢者の生活状況を理解できる 3. 対象のその人らしさを理解し、日常生活を整える援助を学ぶ 4. 対象を取り巻く環境が与える影響について考えることができる				臨地実習
方法	1. オリエンテーションを受ける 2. 行動計画を立案し、指導者との調整を行う 3. 受け持ち入所者記録を作成する 4. 受け持ち入所者に行われる日常生活援助を見学（可能な場合参加）する 5. 毎日、1日の実習報告を行う 6. 看護実習経験表の行動指標に基づき、看護技術を経験する 7. 見学実習を行う （シャドーイング、通所リハビリテーション、デイサービスのいずれか） 8. 施設でのレクリエーション（行事含む）に一員として参加する 9. 実習の振り返りを行う（終了反省会） 10. 記録物を提出する 11. 実習終了後に学内で検討会を行う 12. 実践活動外学習では、オリエンテーション、疾患の学習、看護技術演習 実習検討会などを行う				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で習得とする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院				
参考文献	山田律子編集：生活機能からみた老年看護過程 医学書院 亀井智子編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術 医学書院 看護がみえるvol.5対象の理解！メディックメディア				
備考	外部実習であり、実習施設は特別養護老人ホームと介護老人保健施設のいずれかにて行う。				

分野	専門分野	単位数	2	時間数	90
授業科目	小児看護学実習	学年時期	3年次 通年		
担当講師 (実務経験)	臨床看護師 専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	1.地域で暮らす、さまざまな状況にある子どもたちの一般的な生活を知り、それぞれの発達上の課題をふまえた生活支援のあり方を学ぶ。 2.成長発達している子どもとその家族を理解し、健康の段階に応じた看護師の役割を学ぶ。				
授業内容					授業方法
学習課題	1-1) 子どもをとりまく生活環境が、子どもの成長発達に影響していることが分かる。 1-2) 発達段階(年齢)に応じた子どもの特徴を知る 1-3) 保育士が子どもに対して行う基本的生活動作や遊びへの働きかけを知る 1-4) 子どもと家族への支援に対し、関係職種の専門性や役割、連携の実際を知る 2-1) 一人の人として尊重することができる 2-2) 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響を考えることができる 2-3) 疾病による症状・検査・治療について学び、子どもの特徴に応じた援助方法を理解することができる				臨地実習
方法	1.実習期間は各2～3日間とする 2.事前学習課題をテキストや参考資料で調べ実習に臨む 3.オリエンテーションを受け施設の概要を把握する 4.保育園で地域で暮らす子どもたちの基本的生活動作および遊びへの働きかけの実際を知り、指導者と共に生活の援助を実施する 5.外来では新生児～思春期・健康～急性期にある子どもについて幅広く関わることで、発達段階に看護の役割を学ぶ。診察・検査・処置の見学及び必要な援助を実施する 6.病棟では健康問題をもつ子どもを受けもち、対象の理解、子どもの発達段階に応じた看護の役割を学び、必要な援助を実施する 7.各実習場で、小児看護学実習記録用紙を用い、子どもと家族の理解、看護の役割について学び、実習指導者や専任教員より指導を受ける 8.毎日学生カンファレンスを行う 9.実習の振り返りを行う				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
テキスト	系統看護学講座 専門分野小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 看護がみえるvol.5対象の理解 I メディックメディア				
備考	保育園は外部実習である				

分野	専門分野	単位数	2	時間数	90
授業科目	母性看護学実習	学年時期	3年次 通年		
担当講師 (実務経験)	臨床助産師・看護師 専任教員（助産師：臨床実務経験有）				
科目目標	周産期にある対象の特徴を理解し、対象に応じた看護を学び自己の生命観や母性・父性観を深める事ができる。				
授業内容					授業方法
内容	1.周産期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴がわかる。 2.対象の経過に応じた看護がわかる。 3.対象との関わりを通して自己の生命観や母性・父性観を深める事ができる。				臨地実習
方法	1.実習期間は10日間。 2.テキストや参考資料などを用いて事前学習を行い実習に臨む。 3.周産期にある対象を受け持ち情報収集・アセスメントを行う。 4.受け持ち対象の経過を事前学習と照らし合わせ状態の把握を行う。 5.周産期の対象に行われている援助場面を見学し看護の必要性を学ぶ。（シャドーイング） 6.母性看護学実習記録を記載し対象の理解・経過・看護の必要性を学ぶ。 7.カンファレンスを毎日行い学びの共有を図る。				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で習得とする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院				
参考文献	病気がみえる vol.10 産科 メディックメディア 佐世正勝/石村由利子編：ウェルネスからみた母性看護看護過程＋病態関連図 医学書院 看護がみえるvol.5対象の理解 I メディックメディア				
備考					

分野	専門分野	単位数	2	時間数	90
授業科目	精神看護学実習	学年時期	3 年次通年		
担当講師 (実務経験)	臨床看護師 専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	精神に障がいをもつ人を理解し、関わりを通して自己理解を深め、精神保健福祉における精神看護の役割を学ぶ。				
授業内容					授業方法
学習 課題	1. 入院や通所の場面を通して、治療環境について理解できる。 2. 精神に障がいをもつ人および家族を理解し、治療過程における看護師の役割を理解する。 3. 患者-看護師関係の中から看護者としての自己を理解できる。 4. 精神科医療で提供される医療・保健・福祉について理解できる。				臨地実習
方法	1. オリエンテーションを受け、施設の概要を把握する。 2. 受け持ち患者記録を記載し、指導を受け、対象の理解、看護の役割について学びを深める。 3. 精神看護学実習記録用紙を毎日記載し、日々実習指導者に助言や指導を受け、翌日の患者との関わりや実習に活かす。 4. 毎日カンファレンスを行う。 5. プロセスレコードを1事例記載し、自己理解・他者理解を深める。 6. デイケアや社会復帰施設等の見学を行う。 7. 各実習場で終了反省会を行い、目標の達成度と課題を確認し合う。				
評価方法	実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容及び記録より評価する				
評価基準	60点以上で習得とする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 看護がみえるvol.5対象の理解 メディックメディア				
参考文献	山本勝則・藤井博美・守村洋編著：看護実践のための根拠がわかる精神看護技術				

分野	専門分野	単位数	2	時間数	90
授業科目	統合実習	学年時期	3年次後期		
担当講師 (実務経験)	臨床看護師 専任教員(看護師：臨床実務経験有)				
科目目標	チーム医療の中で個々に応じた看護を、これまで学習してきた看護学の知識と技術を応用して実践する。				
	授業内容				授業方法
学習課題	1.看護チームの一員として複数の患者の看護を実践できる 2.看護の継続性が理解できる 3.看護職や他職種と協働・連携の実際を知る 4.看護専門職としての役割を理解し、自己の課題を明確にできる				臨地実習
方法	1.管理者に付いて見学実習を行う。 2.看護チームの一員として行動する。 ・リーダーに付いて見学実習を行う。 ・メンバーに付いて見学実習を行う。 ・夜間看護師に付いて見学実習を行う。 ・グループで患者数名を受け持つ。 ・夜間実習などで不在となる場合もあるので、グループ内でその日に担当する患者を決定し、複数受け持ちを行う。 3.病棟のカンファレンスに参加する。 4.看護観をまとめる(レポート課題)。				
評価方法	学習課題(60点)・実習態度(40点)で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再実習(1回のみ)				
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1]看護管理[2]医療安全 医学書院				
	系統看護学講座 専門分野 看護学概論, 基礎看護技術Ⅰ, Ⅱ, 臨床看護総論 医学書院				
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1～15]・老年看護学・老年看護病態・疾患論 医学書院				
参考文献	任 和子他編集：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術第2版 医学書院				
	看護がみえるvol.5 対象の理解Ⅰメディックメディア				
備考	実習事前学習として、実習前に「チームで看護をするために必要なこと」についてグループワークで検討し、実習後の検討会でも同じテーマで意見交換を行います				